

【 耳寄り情報 4 】

～ 百本の内1本しか買いません～

9万本から900本を調達

日本国内には大量の丸太を置いている市場が全国各地にあります。それを見るといくらでも国産材の商品が作れるように思うでしょう。しかし手入れの行き届かない森林が多く節が多かったり、間伐が不十分で細かったりと本当にいい丸太は極わずかしかありません。色がきれいで木目が依れていなくて、曲がりの少ないのはさらに少なくなります。

岡山県は県北を中心に面積の7割を森林が占め、5年連続ヒノキ出荷量日本一が示すように木材の量、質ともに西日本有数。そんな大量の丸太の中でも上質な建具に適しているものは **100本中1本ほど**しかありません。当社が調達するのは年間900本で、それを購入するのに9万本の丸太を見ます。枝打ちや間伐の手間を掛けて育てた中で最高の素材のみを調達します。驚かれる方が多いのですが本当です。

建具専門工場による製材と選別

建具用材として調達した50～70年生、直径40～50CMの丸太の木取りは素材の美しさや木目の特徴を生かすことに心がけます。キズを付けないように皮を剥いで丸太を割る準備に入りますが、この間に有害物質の混入は一切ありません。

外周から節の有無や内部に割れないかを見極めながらベテランの職人が、框用には木目が真っ直ぐな部分を**柾目木取り**、パネル用には木目が美しく見えるように板目に割っていきます。丁寧にできるだけ無駄のないように製材するのは技術を磨いてきた職人の技です。その後見本によって木目や色の良し悪し、曲がりの方向や程度を見てさらに用途を細かく決めていきます。色が黒めで曲がりのある木は商品の見えない部材として活用したり、安全な水溶液で優しい色に変えて使います。



木材市場の丸太の様子



丸太を厳選し調達



木材を生かす丁寧な製材



色選別用の見本